

第5回 総合計画策定委員会 作業部会(第8作業部会) 議事要旨

■日 時：令和5年（2023年）5月10日（水）10：10～12：10

■場 所：本庁中層棟4階 第4委員会室（一部オンライン）

■出席者：都市計画室長、公園みどり室長、計画調整室長、開発審査室長、住宅政策室長、
道路室長、下水道部次長（経営室長兼務）、水道部企画室長
＜事務局＞行政経営部企画財政室 参事、主幹

■欠席者：土木部次長（総務交通室長）、地域整備推進室長

■資料

- ・資料1-1 吹田市まち・ひと・しごと創生推進委員会設置要領
- ・資料1-1 吹田市まち・ひと・しごと創生推進委員会作業部会設置基準
- ・資料1-3 第4次総合計画見直し・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定体制等
（R5.4 一部追加）
- ・資料2 第4次総合計画見直し・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定スケジュール・
本日の到達点
- ・資料3 第4次総合計画中間見直しの考え方（再整理）
- ・資料4 第4次総合計画基本計画改訂版素案（第5回作業部会時点）
- ・資料5 第4次総合計画基本計画改訂版素案 新旧対照表（第4回作業部会・第5回作業部会時点）
- ・資料6 第4次総合計画基本計画改訂版 見直し箇所一覧
- ・資料7 第4次総合計画基本計画改訂版 見直し箇所一覧（策定後の主な動向別）
- ・資料8 市民参画 主な意見
- ・資料9 SDGs バックキャストイング
- ・資料10 第4次総合計画基本計画改訂版 見直しポイント別施策指標一覧
- ・資料11 第4次総合計画基本計画改訂版 指標設定理由・根拠及び見直し理由一覧
- ・資料12 まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況報告（R3まで）
- ・資料13 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案
- ・手持ち参考資料1 デジタル田園都市国家構想（内閣府・令和4年（2022年）12月策定）
- ・手持ち参考資料2 地域創生 SDGs ローカル指標リスト
- ・手持ち参考資料3 SDGs スタディパネル

1. 開会

2. 案件

【報告】（1）～（2）（資料1、資料2）

【議題】（1）ア 中間見直しの考え方（再整理）（資料3）

【議題】（1）イ 検討（資料4、資料5）

ア) 中間見直し基本方針「策定後の主な動向」を踏まえた見直し（資料6、資料7）

主な意見

○景観まちづくり計画の改訂

- ・令和4年に改訂した景観まちづくり計画によって、総合計画の現状と課題を見直しているため、資料7に反映してほしい。

○住生活基本計画

- ・住生活基本計画を令和4年3月に策定したため、「関連する主な個別計画」に入れる必要がある。「空家等対策計画」や「マンション管理適正化推進計画」の上位計画に当たる計画である。
- ・空家とマンションに関する条例を令和5年3月に策定している。施策指標6-1-2の「倒壊の危険がある空家等の数」や「長期修繕計画に基づく修繕積立をしているマンション管理組合の割合」も、この条例に直結しているため、「関連する主な条例」に書いた方がよい。

○都市公園等整備・管理方針

- ・資料7、策定後の主な動向別の見直し箇所一覧では、5ページの個別計画に都市公園等整備・管理方針の記載があるが、素案の39ページには載っていない。
- （事務局）素案の「関連する主な個別計画」に整理して載せたい。

○中核市移行

- ・屋外広告物条例の影響もあり、現状と課題に「地域らしさを備えた」と追補した。具体例については序論の「策定後の主な動向」で触れるのがよいのではないかと。

イ) 市民参画で得られた市民意見の素案への反映（資料8）

※各作業部会における指摘を受け、資料を差替え。ホームページ公開分の資料8については、差替え後の資料。

主な意見

○歩道に関する自由意見

- ・歩道の狭さに関して意見が多く出ている。歩道には街路樹が埋まっており、木は時間が経つと大きくなるため歩道の幅を狭めてしまうが、みどりを守る必要もある。歩道を広くするためには木を切るべきだが、そこまで踏み込むべきかどうかは難しい。
- ・自転車に関しては、自転車と人とを分離するという点で、自転車通行空間に関する指標を挙げている。
- ・街路樹再整備計画では大きくなる木を植え替えることなどに言及する予定だが、まだ検討段階である。今年度中の策定を目指している。
- （事務局）現時点で街路樹再整備計画の名称は書けなくとも、その計画の策定の趣旨を現状と課題等に反映することができれば、市民としても市としても課題と感じていることを総合計画に書けるのではないかと。

ウ) SDGs バックカスティングによる SDGs 推進のための施策の充実（資料 9）

主な意見

○ゴール 1 「貧困をなくそう」

- ・ターゲット 1-5 「社会的弱者が被る自然災害の被害や経済的・社会的打撃を減らそう」で、大綱 6 が関連する項目として「耐震化」が挙げられているが、耐震化は社会的弱者に限らず必要。このゴールと大綱 6 は広く当てはまると思うが、なぜ社会的弱者への支援として耐震化が該当するのかは書いておいた方がよい。

○ゴール 2 「飢餓をゼロに」

- ・ローカル指標と直結した政策ではなくてもよいのか。

（事務局）ローカル指標はターゲットを考えるための手がかりと考えている。例えばターゲット 2-3 「小規模食糧生産者を支援して、生産性と所得を倍増させよう」のローカル指標が「農業従事者 1 人当たりの農業産出額」だが、本市には農業従事者がほとんど居ないため、間接的に関連する政策として大綱 6 の農地を挙げている。

○ゴール 6 「安全な水とトイレを世界中に」

- ・ターゲット 6-6 「水に関わるすべての生態系を保護し、回復させよう」のローカル指標「自然的土地利用割合」について、公園にある池の生態系の保存という意味であれば、関連している。

（事務局）公園を守ることが水に関わる生態系の保護につながるということで設定されたローカル指標であると思う。

- ・ターゲット 6-5 「水をめぐる紛争をなくし、仲良く使おう」のローカル目標「水循環基本計画に基づく「流域水循環計画」に該当する計画の策定有無」については、配水場や取水場の共同利用は当てはまらないと思う。「共同利用」はインフラを効率的に使うという観点の取組であり、仲良く水を使うという観点の共同利用ではない。取水量の制限は国の方針に基づいてやっているところもあるが、実施する理由がターゲットの意図するところとは違うと思う。

○ゴール 7 「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」

- ・ターゲット 7-2 「再生可能エネルギーの、世界的な使用率をあげよう」のローカル指標に「太陽熱を利用した温水機器等がある住宅の割合」があるが、市営住宅に設置しているかどうかということであれば、大綱 6 も関連はある。

（事務局）太陽光発電を増やすという施策を受けて、市も一つの事業所として市営住宅やごみ処理場に太陽光パネルを設置している。施策を推進するという側面と、事業を実施する側面と、どう切り分けられるか整理したい。

○ゴール 9 「産業と技術革新の基盤をつくろう」

- ・ターゲット 9-1 「経済発展と豊かな生活を支える、社会インフラを整備しよう」のローカル指標「舗装道路の割合」については、インターロッキングブロックに溶融スラグや産業廃棄物を利用する観点から、ゴール 12 「つくる責任 つかう責任」には関連していると考えている。ゴール 9 で舗装道路に関して今後できることはない。

（事務局）舗装ができていて、ということでも構わない。土木部が道路舗装に関わっているということで関連する政策として整理していただければと思う。ゴール 12 についてはターゲットレベルではど

れに当てはまるかと思っていたが、舗装の観点から整理したい。

- ・ターゲット 9-1 には上水道や下水道も関連しているのではないか。

○ゴール 10「人や国の不平等をなくそう」

- ・ターゲット 10-7「移民や難民を、国と国が連携して支えよう」ではウクライナ支援との記述があるが、ウクライナに限らないのではないか。

(事務局) 広く難民支援ということで記載したい。

エ) 施策指標の見直し(資料 10、資料 11)

(意見なし)

【議題】(2) 第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案

ア まち・ひと・しごと創生総合戦略 第 1 期まとめ(資料 12)

イ 検討(資料 13)

主な意見

- ・総合計画の人口推計とは違うが、人口ビジョンを目指していくのか。
- ・資料 13 の人口ビジョンの想定を目標とするならば、開発案件を止めていくべきではない。日本全体の人口が減少に向かう中で、本当に増加に向かっていくことでよいのか。
- ・いつかは絶対に人口が減少していくと思うと、空き家が増え、50 年先には今のマンションが必要なのかということになる。人口増のインフラは想定していない。
- ・吹田市としては今の状況を維持していくということで、ある程度長いスパンで考えればよいと思う。
- ・建物はこれからも建て替えをしていけるのかということのも悩みどころ。

(事務局) 他の市で出産した方が吹田市で子育てをしたいということで転入してきていることと、若い単身女性層が吹田市に引っ越してきていることが主な要因となって、人口が増加していると考えている。今後は近隣市の人口減の影響を受けて、転入してくる人が減るといった状況になってくると思う。

人口推計について検討している際、現在の人口増の要因となっているよい状態が今後も続くという想定で総合計画の人口推計を出すのはおかしいという指摘も受けた。他市の状況も加味した人口推計は次期の総合計画策定の中で進めていきたいが、人口ビジョンは、人口増の要因となっているよい状態が今後も続くという想定のものである。

人口ビジョンと人口推計は 2040 年以降に差が顕著となり、人口ビジョンに違和感を持たれることがある。人口推計と人口ビジョンの関係について整理していきたい。

3. その他(1)～(3)

以上